

つくし だより

2012年 1月号

NO. 259

〒156-0056 世田谷区八幡山3-33-1 林マンション202

TEL/FAX 03-3304-1108

東京都精神障害者家族会連合会

(通称 東京つくし会) 2012. 1. 15

新年を迎えて

都連会長 野村忠良

昨年は思いもかけぬ大震災に遭い、財政危機も深刻化して、国民はこれからの国のあり方を根本的に考え直さなくてはならないことに気付きました。財政面での立て直しとともに、人と人が温かい繋がりを取り戻し、お互いが安全で幸福と感じられる社会を築いていく必要を痛切に感じています。

中でも大切なことは、社会で守らなければ生きてゆけない人々がしっかりと守られ、社会の中で自分の能力を最大限に高めて発揮でき、幸せに生きてゆける国を実現することです。家族会はこの時にこそ、重要な使命を果たさなければなりません。国民の精神疾患による困難を取り除き、その惨禍から当事者と家族を解放することです。

幸い、昨年は精神疾患がようやく国民の5疾病に入りました。これから精神科医療を徹底的に改革し、真にこころを癒し人間として回復させる医療へと変えなければなりません。精神障害者アウトリーチ推進事業も国の制度として始まりました。今年はこちらの健康推進基本法が国会で成立することが期待されています。精神保健福祉法の保護者制度の廃止についても、厚生労働省の検討チームで今年中にまとめられる予定です。さらに障害者自立支援法に代わる障害者総合福祉法の制定に向けての準備が進められています。

これらの目覚ましい動きは、もちろんこれまでの専門家の方々の尊い働きや当事者の方々の意見表明などが重なって実現してきたのですが、家族会の長年にわたる粘り強い活動も忘れてはなりません。最近では全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）による障がい者制度改革推進会議や新たな精神保健医療体制の構築に向けた検討チーム等での活躍があり、東京つくし会もこころの健康政策構想実現会議や厚生労働省の検討チームを通して大きな貢献をしています。こころの健康推進基本法制定に向けて行われた新宿駅西口での3回にわたる街頭署名では、毎回70人も家族が参加して都民に賛同を呼びかけました。地域や病院の家族会は国会請願のための署名を集め、その一部が昨年5月に厚生労働大臣に届けられました。区市の議会でも、地域家族会の働きかけでこころの健康推進基本法制定を求める決議が次々となされています。

家族会としてこれからの運動の中で引き続き目指すことは、学校教育での啓発教育を実現させ、早期支援を拡大させること、訪問による支援を行き渡らせること、本人とともに家族も支援の対象とすること、精神科医療では本人の尊厳と権利を守り人間として幸福を回復できる診療に改革すること、救急医療になる前に穏やかに対処できる地域の支援体制を整えること、そして当事者の支援を家族だけに任せるのではなく、国と自治体と地域が責任をもって支える体制をつくることです。

今年も精一杯、より良き社会を目指して活動を続けましょう。

皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。



「こころの健康推進議員連盟」設立・記念講演会に参加して

足立区ひだまりの会 服部 百合子

平成 23 年 12 月 1 日に参議院議員会館にて標記の会が開かれ参加いたしました。

先ず、日本中の精神障がい者運動に命がけで活動して来た人達が総て、100 万人署名運動に参加し「こころの健康を守り推進する基本法」制定に向けて結集したことは、今までの精神障がい者運動の中で、かつてなかった画期的な素晴らしい成果であると胸を打たれました。

63 名の、こころの健康政策構想実現会議を起ち上げ進めて来た皆さんの大きな強い力が、各政党の議員さんを動かし、議員連盟を設立させ基本法制定に向けて、総ての議員さんから期待に応えたいとの熱意のこもった回答を得ました。心から感動しました。特に、みんなの党の渡辺喜美議員より精神疾患の回復率は日本は 7%、海外では 70% であること。アウトリーチは大賛成、当事者、家族が救われるような政策を実行したい。と発言されました。

第 1 部 議員連盟設立会

開会の辞を細川前厚労大臣、呼びかけ人代表挨拶、各党代表挨拶に続き、議連趣旨規約・役員構成等確認がされました。

議連設立趣旨

- ・精神保健医療福祉の総合的・包括的な推進を図り、総ての国民のこころの健康増進をめざします。
- ・当事者・家族のニーズに応え自己決定にもとづく地域生活を継続できるインクルーシブな社会の実現をめざします。
- ・学校・職場・地域での精神保健教育を充実し、こころの健康を大切にする社会の実現をめざします。
- ・こころの健康の増進を国・自治体の主要な政策と位置づけ、必要とされる財源・社会資源の確保をめざします。

第 2 部 記念講演

テーマ：「当事者・家族のニーズに基づく英国の精神保健医療改革」と題して、イギリス国立精神保健開発機構精神病早期介入一般医顧問デイビット・シャイアーズ医師が、イギリスの地域精神保健サービスを改革するための 10 年間のコミットメント NHS（国営医療サービス）国家計画について熱く話されました。はじめて精神病を体験したすべての若者に早期で密度の濃いサポートを提供する。他、充実した内容でした。

3 氏の発言（当事者、家族、精神科医の立場から）

- ・当事者から「国はこころの健康を守る責任がある。国民のこころの健康の危機から目をそらさないで欲しい。」
- ・家族から「国民の安心する社会を願っている。」
- ・病院経営の医師から「現在の入院者数 367, 000 人。生活支援がなければ社会に戻れる権利を奪われる。総合的なシステムを。」

最後に、この会合に参加し伊勢田先生にお会いしました。先生より、つくし会の高山元会長や服部さん(主人)の長年の願望が実現します。と力強く言われました。胸が熱くなりました。伊勢田先生、有難うございました。



都 2 3 区東ブロック地域会議

都連理事 徳山尚子

去る11月26日(土)、快晴に恵まれて、荒川区めぐみ会の協力のもと、都電沿線での初の開催となる平成23年度第2回東京つくし会東地域ブロック会議が『荒川地域生活支援センター・アゼリア』で開催されました。

当日は午後1時半から約2時間半、荒川めぐみ会の荒木会長の司会で15単会29名の参加を得て、和やかな空気の中で活発な報告、議論が交わされました。今回、特にACTとアウトリーチに関する言及が目立ったように思います。東京つくし会の野村会長から東京都のアウトリーチの現状について説明があり、出席者からも報告がありましたが、家族が望む訪問診療、訪問相談というのにはまだまだ道は遠いのが実情のようです。

また、所得保障に関しても毎回話題になる福祉手当、医療補助について、野村会長から県や市町村によっては独自の助成を行っているとの報告がありました。今後、東京でも是非、実現を目指していきたい課題です。

東ブロック会議では出席者を役職に限定せずにご参加いただいておりますが、今回初めての参加者から、自分の家族会にいたるだけでは見えないことが活発に議論されていて来てよかったという感想をうかがい、ブロック会議の役割や意義を再確認しました。この方の所属単会は活発な活動を行っていらっしゃるようですが、高齢化や会員減少のため、活動継続が困難な単会においては、情報を共有し、悩みや相談を投げかける場としてご参加いただければ会議の目的にかなうものと考えます。

16単会で構成される東ブロック会議は各単会が持ち回りで年に3回開催し、ちょうど今回でひと巡りいたしました。次回、平成23年度第3回の東地域ブロック会議は2巡目のスタートとなり、中央区つつじ会の協力で平成24年2月25日(土)、佃区民館で開催することが決まりました。時間の制約があり充分議論が尽くせない感が残りましたが次回に期して閉会しました。



東京つくし会 23区西地域ブロック会議報告

都連理事 鈴木孝男

日 時：平成23年11月19日(土)

場 所：新宿区西早稲田リサイクルセンター会議室

参加者：合計 25名

テーマ：家族会の運営と支援について

*家族会の存続

活動が活発な単会は会員が微増しているが活発な単会はあまり多くない。区から紹介され会員になる場合もある。活動を少数の人の尽力と献身的努力に頼り継続している。殆どに障害者と家族の高齢化現象があり単会そのものの存続もおぼつかず、家族から相談があるので止める訳にいかず細々と続けている。

*活動

活発な単会は講演会を行い人を集めているが会員と役員を増やすことに繋がっていない。活動を活発にすることで継続できる状況を作っている。

*広報

講演会等の情宣を区報に載せている単会がある。逆に区報に載せていたが取り消された単会もある。区報に載せることは非常に効果的でもあるし、経済的でもある。

*ホームページ

講演会や研修会、行事を載せると他府県からの参加者が多い。裾野を広げる要素である。ホームページのない単会が多い。

*要請行動

区へ要請行動をしている単会があり福祉手当金支給に繋がっている。要請行動は家族会の実態と活動を知って貰う大事な活動である。

*都連から

単会支援の活動としてホームページについて考えたい。単会から要請があれば都連のホームページの中に、単会のページを作っても良いかと思う。



第四回全国精神保健福祉家族大会みんなねっと香川大会に参加して

大田つばさ会 渡邊政子

まず、会場の環境のよさに和まされました。会場案内の方も多く、多方面にわたりサポートして下さりまごつかなくてすみしました。

基調講演「おせっかいの心と地域福祉」ではさすが“巡礼のメッカ”。いつでもどこでも誰にでも優しくにこやかに、そして決して無理をしないでと。また、仏様をお願いする時は自分の願い事だけでなく、いま生かされている事や他者への感謝の気持ちを忘れずに等々、こころに残りました。

分科会はテーマ：「安心して働きやすい社会に ～就労・復職支援の現状とこれから～」を受講。その中で「疲れ切っているのは障害者だと思っていたけれど、彼等達の一生懸命な姿に触れてかえって多くの健常者が癒されている」という話をきき嬉しく思いました。

また、障害をカミングアウトして活動されている日本でただ一人のピアニストの横島さんは、司会者から風邪は薬で治るけど、この病気に対して経験を通してアドバイスは何ですかと問われ、

- ・薬の把握は自分でちゃんと飲む
- ・医者にまかせ、人任せにしない
- ・自分で治そうとする
- ・自分で生きる、が支えもする（地域・家族）
- ・回りの過干渉はよくない

と、とても明快な事を言われました。

川崎理事長も、私達家族自身が制度を変える、作っていくという意気込みを持ってやろうと力強く訴えられました。私は、障害のある方にもそれぞれが幸せになって欲しいと熱心に取り組んでくださった援助者が、沢山おられる事にとっても励まされました。そして、悩んでいるよりも前を向いて行かなくてはと心に誓い、有意義な大会であったと思いました。



編集後記・・・原発の収束宣言が出た。本当に収束したのだろうか。どうも感覚が違っているようだ。精神科の医療も本人の感覚と、家族の感覚、そして医療側の感覚と相当離れていると思うことがある。原発は科学的判断で客観的に定めることが出来るが医療は相手が人間であるから科学だけで判断は出来ない。生活上の問題がととても大きいのでサポートにより判断が異なる場合がある。今年の漢字は「絆」である。その絆の受け止め方も土地柄や地方、都会によって異なる。地域ケアやケアサポートも違いがある。地域に根ざせるサポート体制の構築を望みたい。

（都連理事 鈴木孝男）